

経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県小鹿野町 国民健康保険町立小鹿野中央病院

| 法適用区分 | 業種名・事業名 | 病院区分 | 類似区分 | 管理者の情報 |
|--------|---------|---------|--------------|------------|
| 当然財務 | 病院事業 | 一般病院 | 50床以上～100床未満 | 自治体職員 |
| 経営形態 | 診療科数 | DPC対象病院 | 特殊診療機能 ※1 | 指定病院の状況 ※2 |
| 直営 | 9 | - | D | 救 |
| 人口（人） | 建物面積（㎡） | 不採算地区病院 | 不採算地区中核病院 | 看護配置 |
| 10,622 | 8,475 | 第2種該当 | - | 10:1 |

※1 D…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

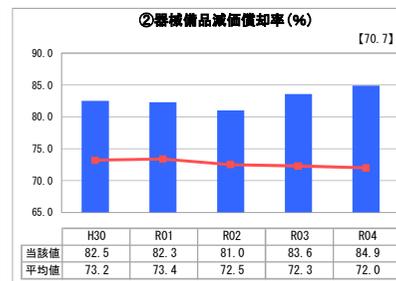
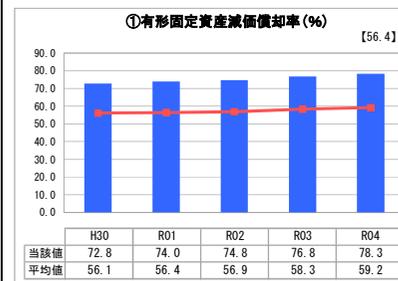
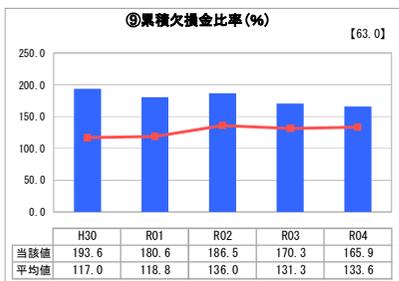
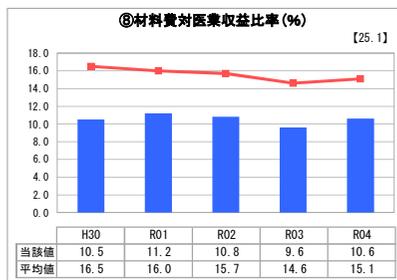
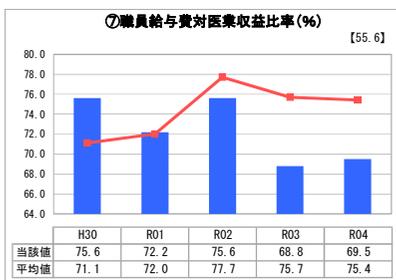
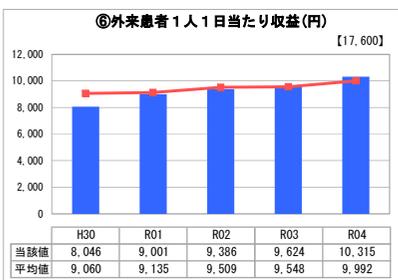
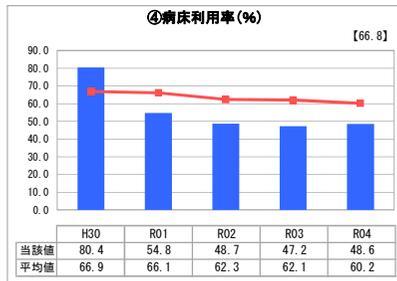
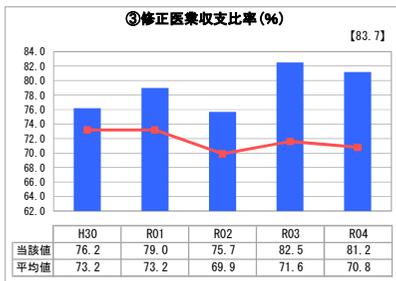
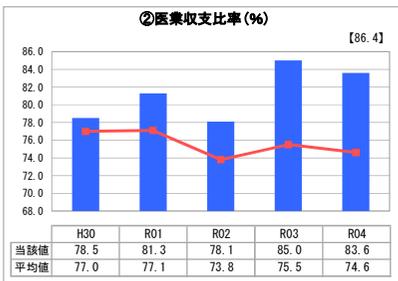
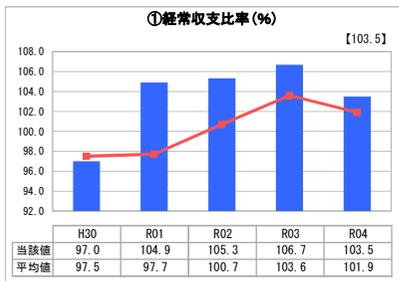
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪審判病院

| 許可病床（一般） | 許可病床（療養） | 許可病床（結核） |
|------------|------------|---------------|
| 95 | - | - |
| 許可病床（精神） | 許可病床（感染症） | 許可病床（合計） |
| - | - | 95 |
| 最大使用病床（一般） | 最大使用病床（療養） | 最大使用病床（一般+療養） |
| 60 | - | 60 |

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

| 機能分化・連携強化 (院外連携・ネットワーク化を含む) | 地方独立行政法人化 | 指定管理者制度導入 |
|--------------------------------|-----------|-----------|
| 年度 | 年度 | 年度 |

I 地域において担っている役割

平成31年4月以降、急性期病床45床、回復期病床30床（地域包括ケア病床）で運営している。外来診療では、整形外科と眼科で近隣のクリニック等では難しい症例も受け入れ手術治療も行っている。秩父郡市全域で人口減少と高齢化は加速しているが、西秩父地域では唯一の病院であり、地域医療を提供する役割は大きい。令和5年度からは訪問看護事業を当町保健課より当院に移管し、より地域に根付いた医療を提供している。

また、予防からリハビリまで切れ目のない医療を提供するため、訪問診療、通所リハビリ・訪問リハビリサービスにも力を入れている。また、緩和ケアの対応も行っており、地域医療の拠点としての役割も担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率— 外業収益は、新型コロナウイルス感染症拡大による業務外委託が継続しており増加、入院収益は前年度を上回るペースであったが、2月に発生したクラスターの影響で最終的には前年度を下回った。医業収益全体でもワクチン接種対応が盛況にできたことも響き、経営改善以上に収益を確保できた。また、一般診療からの収入減少が顕著であり、収支は減少した。費用削減は給与費をはじめ材料費、経費削減に増加し経常収支比率は減少となった。

② 医業収支比率— 診療報酬改定の影響により入院患者の伸びが鈍化し、ワクチン接種患者が減少したため生活活動支援に寄与した。訪問看護は診療報酬により、訪問看護費が減少傾向にあり、訪問看護費は減少傾向となった。

③ 修正医業収支比率— 訪問看護一併費削減が効果的であるが、スタッフ数を考慮し一部削減、回収率も低下している運用を行っている。高齢患者が多くなり、訪問看護に転じて退院するケースも多く利用率が伸びてきた。

④ 病床利用率— 入院患者1人1日当たり収益の増減が顕著に現れているが、日帰りを実施する患者が増加し、入院患者1人1日当たりの収益は減少となった。

⑤ 入院患者1人1日当たり収益— 入院患者1人1日当たり収益は減少傾向であったが、業務外委託の増加が響いていること、単価の改定により日帰り手術患者が増加し外来収益に上乗せされなくなった。

⑥ 外来患者1人1日当たり収益— 外来患者1人1日当たり収益は減少傾向であったが、業務外委託の増加が響いていること、単価の改定により日帰り手術患者が増加し外来収益に上乗せされなくなった。

⑦ 職員給与費対医業収益比率— 職員給与費は100%増加し給与費全体でも440万増となった。医業収益全体で前年度比207万増となったため職員給与費対医業収益比率は前年度比77.7%増となった。

⑧ 材料費対医業収益比率— 診療報酬改定により材料費は増加しているが、業務外委託やワクチン接種の増加が響いて増え1.9%増となった。

⑨ 累積欠損金比率— 14年度開始に増収率を悪化し、多額の減損償却費を計上しており、人口減少、新型コロナウイルス感染症拡大による患者数減少により収益も伸び悩んでいる状況である。経常収支は前年度比約9,000万増であるが、累積欠損金比率は4.4%増している。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 器械備品原価償却率は類似団体と比較し固定資産減価償却率が高いことから老朽化が進んでいると思われる。病院本館は昭和51年に建設し40年経過しており、建物の安心・安全を確保するため、平成29年度に耐震工事を、雨漏り対応工事を令和2年度に実施した。器械備品についても類似団体と比較して償却率が高くなっており、医療機器に関しては、経営も厳しく1年でも長く有効利用するために、保守点検及び精度管理を定期的に実施し、耐用年数より長く利用している機器が多い。保守点検者の情報により精度が確保されない場合は、機器の更新を行なっている。

全体総括

西秩父唯一の病院であるが、人口減少、高齢化が加速している状況は変わらず、医療・経営面でもどちらも厳しさが増している。また施設の老朽化も加速し、修繕には多額の費用がかかるため、小鹿野町単独での運営も厳しい現状となっている。

令和4年度については概ね入院収益が好調であったが、2月に新型コロナウイルスのクラスターが発生した影響が大きく、最終的には前年度を下回る決算となった。

令和5年度からは訪問看護事業を取り入れ、患者数の増加や経営面の改善を図っている。近い将来、病棟の集約と訪問看護事業の拡大を検討しており、適切な人員配置と患者数を確保することに努め、収益改善につなげていきたい。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和4年度決算）

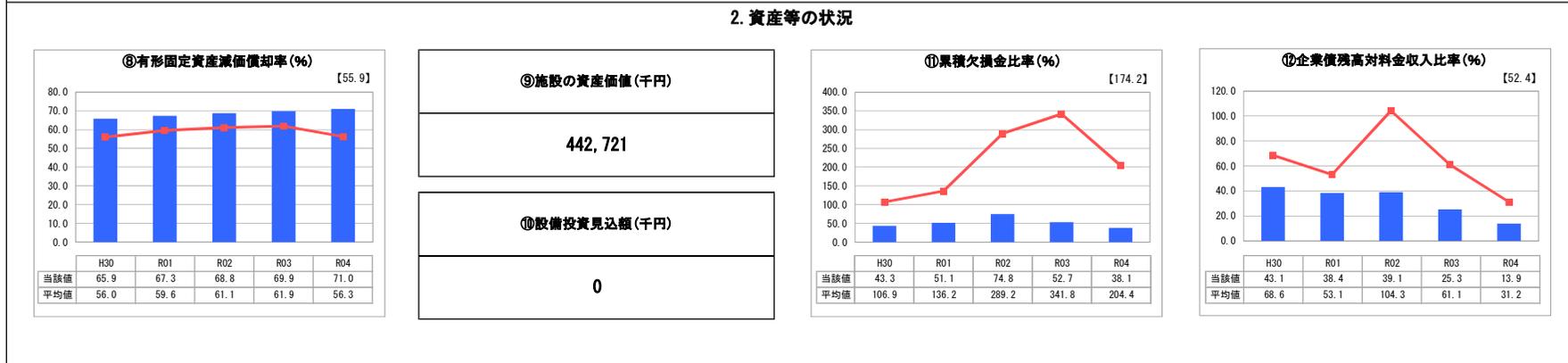
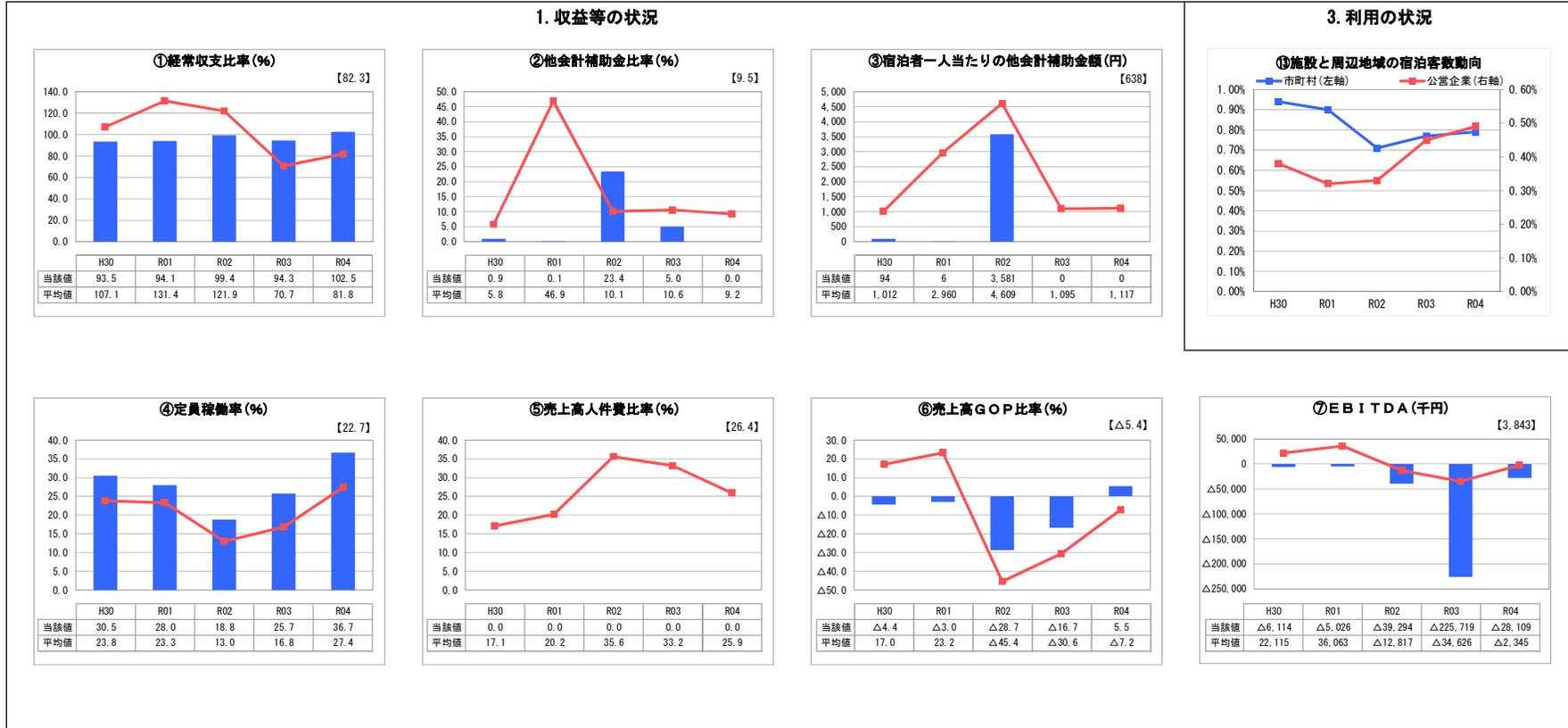
埼玉県小鹿野町 国民宿舎 両神荘

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似施設区分 | 管理者の情報 |
|------------|--------------|-----------|-----------|--------|
| 法適用 | 観光施設事業 | 休養宿泊施設 | A 2 B 2 | 非設置 |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 建物延面積 (㎡) | 宿泊定員数 (人) | |
| 0.0 | 86.8 | 4,302 | 168 | |

| 客単価 (円) | 指定管理者制度の導入 | インターネットによる予約割合 (%) |
|---------------|-------------|--------------------|
| 10,384 | 無 | 55.1 |
| パリアフリー法の基準適合性 | トイレ洋式化率 (%) | Wi-Fi設置 |
| 無 | 85.7 | 有 |

グラフ凡例

- 当該施設値 (当該値)
- 類似施設平均値 (平均値)
- 【】 令和4年度全国平均



分析欄

1. 収益等の状況について

①経常収支比率は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が徐々に緩和され、経済活動の正常化に向けた動きが進んだのと、宿泊割引等のキャンペーンにより集客を増やせた。
 ②③他会計補助金比率、宿泊者一人当たりの他会計補助金額は、集客出来たので減少しました。
 ④定員稼働率は、コロナ禍の行動制限の緩和で上回って経営改善が図られている。
 ⑤売上高人件費率は、やはり集客が図られて収益が上がったので押さえてきた。
 ⑥売上高GOP比率は、営業総利益増加により回復傾向になっている。
 ⑦EBITDAとは減価償却前営業利益ですが、ウクライナ情勢の長期化により光熱費、燃料費、食料費等の高騰していますが増加、収益確保に努めます。

2. 資産等の状況について

⑧有形固定資産減価償却率は、年々施設等古くなり設備の当施設開業から48年以上が経過し今後も施設の老朽化が進むことから、計画的な施設の整備、更新に努めます。
 ⑨累積欠損比率は、黒字になり減少傾向になりましたが、なお一層の経営改善に努め赤字額縮小に努めます。
 ⑫企業債務高対料金収入比率は、光熱費等費用増加もありますが集客の改善により押さえられてきています。なお一層の集客に努めます。

3. 利用の状況について

③宿泊利用の状況については、コロナ禍による緊急事態宣言等の行動制限の緩和で、経済活動の正常化に向けた動きがすすみ、宿泊割引等のキャンペーン実施により多くの集客が came out。
 今は電話予約から、宿泊予約サイトを通しての予約が多くなりその分、送客手数料の増加につながる。自社ホームページからの予約に置き、手数料削減をすべく宿泊プランの販売をより一層利用促進をしたい。集客に努めます。
 またホームページの内容等こまめな更新し予約を取り込みたい。

全体総括

昭和50年本館開業から48年、平成4年新館だった別館も31年が経過し施設の老朽化が進む中、改修費用も増加傾向にあり厳しい経営状況の中、コロナ禍による行動制限の緩和、宿泊割引キャンペーンの影響で利用客増加で営業収益も上がりました。しかし、厳しい経営環境が続く中ではありますが、より快適で安全に利用できる町営国民宿舎として、健全な事業運営ができるよう経営改善に努めます。集客に向けた、ホームページやチラシなどの画像の更新、よりよい宿泊環境を提供しながら営業を実施し経営を改善し営業に努めます。

経営比較分析表（令和4年度決算）

埼玉県 小鹿野町

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|------------|--------|-------------------------------|
| 法非適用 | 下水道事業 | 特定地域生活排水処理 | K2 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料(円) |
| - | 該当数値なし | 33.92 | 100.00 | 2,090 |

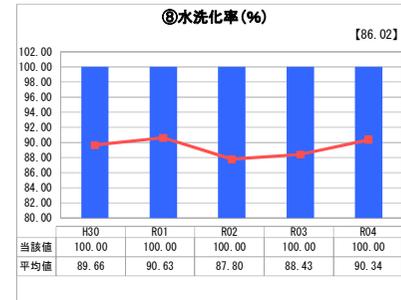
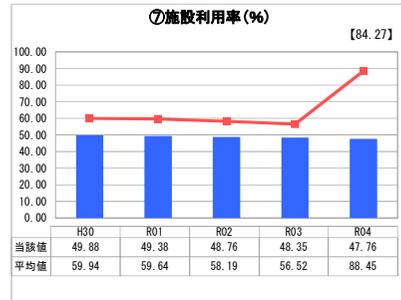
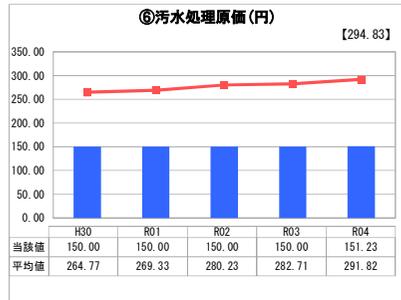
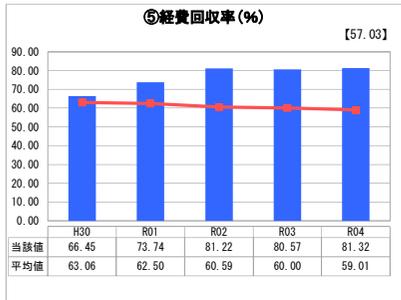
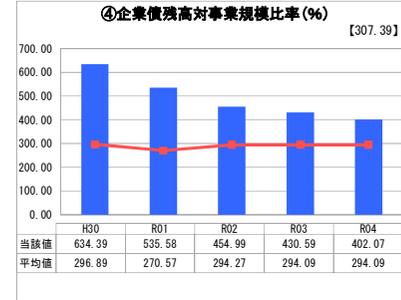
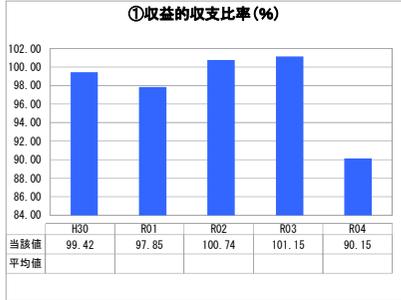
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 10,622 | 171.26 | 62.02 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 3,555 | 1,712.60 | 2.08 |

グラフ凡例

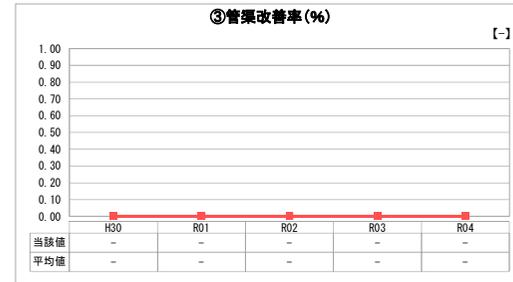
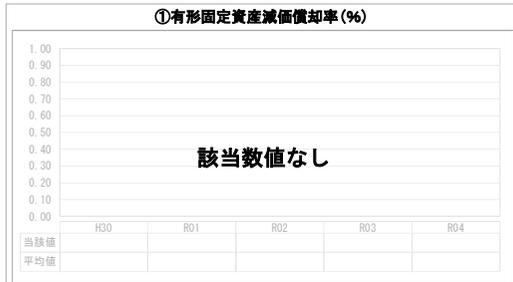
- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）

【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
経営の健全性についてはR3年度より悪化している。収支が赤字（100%未満）となっているため、使用料の値上げ等を検討し、経営改善に向けたさらなる取り組みが必要である。

④企業債残高対事業規模比率
類似団体平均値と比較して高い水準となっているが、これは当町がこれまでに合併処理浄化槽の設置を積極的に推進してきたためである。合併処理浄化槽の設置基盤も一定の基盤に達し、近年は年間の設置基盤が減少傾向にあるため、今後の企業債残高は類似団体平均水準に近づくと考えられる。

⑤経費回収率
汚水処理に係る費用を使用料のみで賄えてはいない。これは社会情勢等から、消費税の増税分以外に使用料金を値上げしていないことが要因の一つと考えられる。今後については、汚水処理費の増加が予想されるため、適正な使用料水準の確保及び汚水処理費の削減が必要である。

⑥汚水処理原価
毎年150円台をキープしており、安定した汚水処理コストを維持している。また、類似団体平均値と比較しても、比較的安価な汚水処理コストを実現している。これは、浄化槽保守点検及び清掃作業委託料について、消費税の増税分以外に値上げしていないことが要因の一つと考えられる。なお、今後は社会情勢等から委託料の値上も考慮されるが、汚水処理単価の上昇をなるべく抑えるように努める。

⑦施設利用率
類似団体平均値と比較して低い水準となっているが、当町では世帯人員（使用人員）により設置する浄化槽の大きさを決定しており、6名以上の場合は10人槽を設置するなど汚水を確実に処理できるように整備しているためと考えられる。

⑧水洗化率
浄化槽により汚水処理をしており、設置後すぐに使用開始するため、水洗化率は100%である。

2. 老朽化の状況について

当町では全域を市町村設置型浄化槽で整備しているため、管渠の設備はありません。市町村設置型浄化槽の供用開始から23年が経過しますが、浄化槽の耐用年数はおおむね30年となりますので、老朽化対策については今後検討していく必要があると考えます。

全体総括

汚水処理費を浄化槽使用料で賄えていないため、現状、繰入金を受けることにより、不足額を補填している状況にあります。今後、汚水処理費の増加が予想されることから、収支が赤字である状況を改善するため、料金設定の見直しによる、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の削減に向けた取組が必要であると考えます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。